

課題番号 1

持続可能な農業経営に向けて

～ 輪作の推進と花き生産力の維持 ～

対象：岩見沢市栗沢町越前・自協地区（22戸）

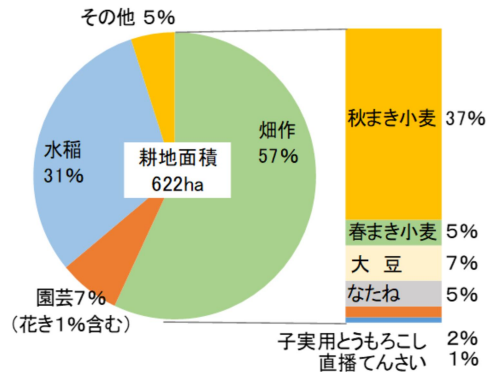
1 活動の背景

- ・ 水稲、畑作を主体に野菜、花き（ひまわり等）が作付け
- ・ 基幹作物の秋まき小麦は収量の年次変動が大きい
- ・ 直播水稲が新規導入・拡大（R3より継続2戸、新規1戸）

⇒課題：安定生産に向けた栽培技術の向上

- ・ 収益性の高い輪作物目の選択、花きと土地利用作物の作付バランス検討が必要

⇒課題：持続可能な農業経営に向けた経営管理能力の向上



2 活動の経過

(1) 輪作物目の栽培技術向上

○秋まき小麦の適正肥培管理の実践 ⇒「きたほなみ」起生期の生育に応じた追肥技術を提案



起生期追肥検討中



起生期追肥展示ほ設置



現地研修会

○直播水稲の安定生産技術実践 ⇒安定生産に向け①ほ場準備②適正は種③適正肥培管理を提案



苗立状況を確認



生育に応じた技術提案

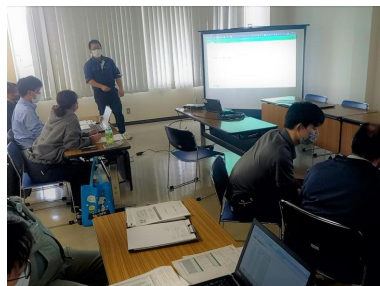
生育は順調に推移しています。
追肥は幼穂形成期までに
終わらせましょう。
除草剤は発生雑草に応じて
散布しましょう。

(2) 経営管理能力の向上

○経営分析による課題整理 ⇒原価分析による生産費や収益性等の見える化を提案



原価分析取り組み支援



J A 地区相談員と協力



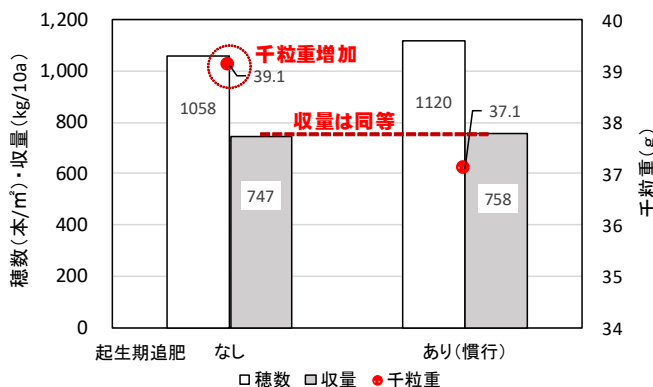
ひまわり使用資材の検討

3 成果の具体的内容

(1) 輪作品目の栽培技術向上

○秋まき小麦の適正肥培管理の実践

きたほなみの肥培管理実施戸数 目標 4戸→実績 4戸



起生期追肥有無による生育・収量差 (きたほなみ)

◎4戸が生育に応じた追肥効果を検証
生育量に応じて追肥を省略しても
収量を確保できることを確認!

今まで追肥しないと収量とれない
と思っていたよ
肥料も高騰しているし、
今後も春先の生育量に応じて
追肥判断します



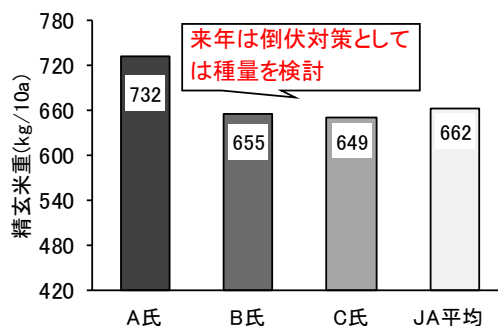
○直播水稻の安定生産技術実践

安定生産技術実施戸数 目標 3戸→実績 3戸

安定生産技術項目 (目標: 7項目以上の実施)

安定生産技術	評価基準	A氏	B氏	C氏
粗耕起 (チゼルプラウ)	有無	×	○	○
ほ場準備 心土破砕	有無	○	○	○
均平	有無	○	○	○
砕土率	2cm以下70%	○	○	○
適正 は種	は種量(kg/10a) は種日	○	○	×
		○	○	○
適正 施肥管理	土壌診断 基肥施肥量 施肥設計と生育に 応じた追肥判断	○	○	○
		○	○	○

◎3戸が安定生産技術を実践
収量はJA平均と同等～上回った
新規5戸が次年度導入の意向!

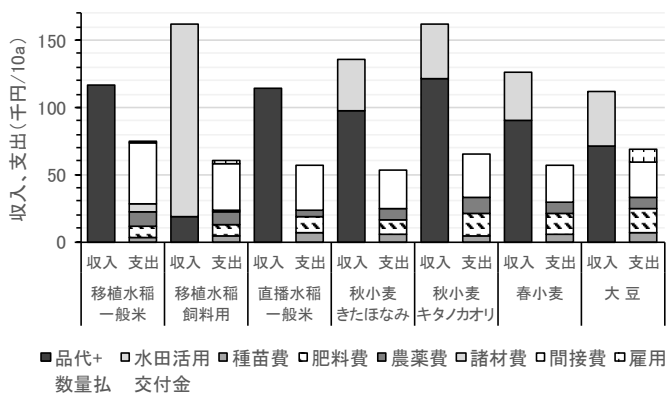


直播水稻収量 (そらゆたか)

(2) 経営管理能力の向上

○経営分析による課題整理

原価分析実施戸数 目標 8戸→実績 9戸



原価分析結果 (分析者平均)

◎9戸が原価分析を実施
R3農作物の生産費等を見える化!
各作物の収益性や肥培管理を検討

経営移譲の前から経営について
考える機会があってうれしい!
地元の先輩農家と経営について
話してみたい!



4 今後の課題と対応

- ・秋まき小麦の製品歩留まりの向上に向けた支援を継続、品種に応じた肥培管理を検討
- ・直播水稻の導入拡大に向けて安定生産技術の実践を支援継続
- ・原価分析の取り組み支援継続、検討会に開催による個人の課題を整理、輪作計画の作成支援
- ・ひまわり生産量維持に向けた適正施肥など基本技術の実践を支援